



# 〈社会に生きる学力形成〉

——カリキュラムの政治性の視点から——

金森 修

東京大学教育学部

waskana@p.u-tokyo.ac.jp

# 社会に対応する知識

- ↓ そもそも...
- ↓ 例えば六〇年代、幾何光学
- ↓ その重要性が減る より年齢の高い世代での習熟に重点が移動し、子供にそれを詳しく教える意味が減る
- ↓ 時代毎での〈社会〉に必要な知識の変遷

# 社会に対応する知識

- ↓ 「社会に対応する知識」という定式で、もしその種の、時代毎の産業界の質的变化を最小限の時差で学校教育に反映させるという意味であるとするなら、或る種の自明性
- ↓ ただしそれが自明だ、というためにはその前提として、社会全体の〈産業社会〉的な性格が共有されている必要性がある

# 産業社会は自然な所与ではない

- ↓ 〈産業社会〉(工業主導・物資の高速かつ広範な移動前提・大量生産、大量消費的なエートスの浸潤が前提) ただしこれは、人間社会の必自然的な在り方とはいえない むしろこの二、三百年の歴史性刻印
- ↓ だから、他のタイプの社会構想もありうる、という眼差しの設定は、実は重要

# Alternative?

- ↓ ただし、それを中等教育でメッセージとして与えることは事実上、困難
- ↓ ただ、その認識をもち、成人社会が或る程度の alternative 的社会構想の可能性を言い続けることの重要性はある(実はそれは、二〇世紀なら、マルクス主義が担っていた)
- ↓ ただ、マルクス主義的社会構想の実験の失敗が、その種の可能的 alternative 社会のデザインに、大きく負の作用をもたらした

# 現状を当然とは見ないということ

↓ ともあれ〈社会〉——現実にはいまあるような社会——は、当然としてなるようになってい  
るのだから、それを絶対的前提とすべき、と  
は必ずしもいえない、という見通しが社会  
の中に、マイノリティの状態であっても存続  
している、ということは重要

# カリキュラムの非・中立性

↓ その認識を取る時、中等教育で子供に与えられる知識の総体・カリキュラムが、客観的かつ永遠の世界記述に基づく、最も妥当な内容を含むとはいえず、歴史性・社会性・政治性をそれなりに反映したものだということは明らかで、その認識を成人、教育者が一応もつことは大切

## しかも、その場合、〈社会〉は？

↓ また、「社会に対応する知識」といっても、その場合、社会が一定の歴史性・政治性を持ちながらも、それが成熟し順当な政治性に彩られているなら、特に問題ないわけだが

...

# 日本社会における産業保護的偏向

↓ 日本社会の特質：

↓ 個人の命 < 産業保護

↓ 水俣病、スモン、今回の放射性物質汚染etc

# 功利主義的偏向

- ↓ 10万人が繁栄するなら50人が重篤な病・死に至っても致し方ない、という判断
- ↓ Cf リスク論
- ↓ それはそれで一つの判断(功利主義的)

# 産業保護社会≠自明的

- ↓ しかし、私は〈個人の命〉に、より重きを置き、配慮をする社会の方がいいと思っている
- ↓ (個人的判断、といわれれば、それまで)
- ↓ ともあれ、その視点からみるなら「現状の社会」が実に妥当で順当、とはとうてい思えない

# 社会に対応する知識≠順応

↓ となると...

↓ 「社会に対応する知識」といった時に、いかに現状の現実的社会に有効かつ最適経路を通過して順応するか、ということが、至上の目標設定となっていけない、という判断が出てくる

## 〈最適社会〉ではない、ということを知らせる？ そのメッセージは？

- ↓ 「現状の社会」は、確かに一定程度機能しているので、その大枠を押さえる必要はある
- ↓ ただし、それは何も最適・最善の社会とはいえない、ということ、成人は当然ながらもち、可能であれば、その判断を、なんらかの形で中等教育に反映させる必要がある

## 最善ではない社会・それを伝える？

- ↓ 「現状の社会は最善だ」とはいえない、という認識が、醸成可能なような知識伝達、
- ↓ それは如何にして可能なのか
- ↓ 或る種の逆説：教えるべき、しかし絶対にこれは正しいとはいえないかもしれない、という含意を込めて、教える？

# 社会に対応する知識≠調整

↓ 即答を避けて、まず迂回路的な前提:「社会に対応する知識」というのが目標設定として掲げられるとしても、それは調整的態度の育成、というものであってはならない、ということ

## （高等教育でも、〈古典性〉）

- ↓ 高等教育の場合でも、その機関の水準にも依るわけだが...
- ↓ 職業学校化、就職予備校化を汎在させないような、異なるバイアスが必要
- ↓ 「社会に生きる知識」： その含意をやはり、或る程度、内省・反省することは少なくとも、高等教育水準では必要

## では、中等教育では？

- ↓ ともあれ、中等教育では、社会参加への準備という成分はもちろんあるので、一定の習熟必要性はもちろんあるわけだが
- ↓ 同時に、〈現状社会の最適性〉、という視点をとらない私のような発想の場合、どうするか

## 〈批判的市民〉の育成へ

- ↓ 実は古典的定式あり:
- ↓ 調整的ではなく、最終的には自律的・リベラル・批判性を含めた個我が、醸成されやすいような教授内容、教育方式を涵養することが大事に
- ↓ 言葉の最良の意味における、〈自律的で批判的な市民〉の育成を目標とするべき

## 具体的には...

- ↓ 数学：論理的手続きによる、思考の経路  
形式陶冶的考え方の評価、重視
- ↓ 道徳教育などは、或る種のマージン、自由  
度を許容すること

## 具体的には...

- ↓ 歴史教育の重要性
- ↓ (日本史・世界史問わず)
- ↓ 複数の解釈可能性、視点を変えた時の異なる相貌が目に見えてくる、ということ、教師自身が示してやること 子供に実感させること